

# 全連小山口大会迫る

特命幹事

岡崎 智利



来たる十月二十二日、二十三日の両日にわたって、第六十七回全国連合小学校長会研究協議会山口大会が山口市において開催される。大会主題は、三重大会以来「新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」であり、本県での開催は埼玉県に続き三年次となる。

大会の副主題は、「志を高くもち 未来へ向かって 共にたくましく生きる子どもを育てる学校経営の推進」を掲げている。内容は、山口県スポーツ文化センターを全体会に、市内十三会場

の分科会、並びにシンポジウムをもって構成している。全体会では、文部科学省より、今後の教育施策等について講話をいただく。分科会では五つの研究領域を設け研究協議を行う。

シンポジストには、「龍馬伝」や「ガリレオ」等で著名な脚本家福田靖氏、地熱を利用した換気システムを開発し住宅などに導入したことで知られる橋本東光氏、「半沢直樹」「大河ドラマ」等のナレーションで知られる山根基世氏をお招きしている。

本県は、「西の京」の名の通り、時

代ごとに文化の華を咲かせ、進取気鋭の志をもって時代を切り拓いた「維新のふるさと」でもある。

今大会ではそのことを踏まえ、「志 未来創造 和をつなぐ」をスローガンに、知識基盤社会、グローバル化の進展に対応すべく学校経営の在り方を探究していくこととしている。

この大会を成功に導くためには、本県校長会三百余名一丸となり、総力を挙げて運営にあたる必要がある。

現在、運営組織は、総務部、運営部、研究部、広報部及び大会宣言文審議委員会構成されている。

加えて、大会実行委員会並びに事務局、各校長の役割をもって全体の運営にあたることにしている。

そこでは、志高き校長の企画力や行動力が生き、未来創造力のある展開がなされるよう願っている。

また、全国各地から来県される方々に対して、日本人としての心の基盤となつている「和をつなぐ」誠実な働きかけも大切となる。

## 支 部 情 報

### 下 松 支 部

情報・課題を共有し  
共に歩む校長会をめざして

下松市は、本年度市制施行七十五周年を迎えた。人情豊かなまちづくりを進めており、都市基盤や商業施設の充実を図るとともに豊かな自然に恵まれ、住みよさランキング（「東洋経済新報」）によると、中四国地方では、五年連続トップとなり、県内十三市で人口が唯一増加している活力に満ちた市である。

本支部は、昨年度末で江の浦小、笠戸小の二校が閉校となり、山間部小規模校と都市部中・大規模校の八校の校長で組織されるコンパクトな支部である。このコンパクトさゆえ、団結力が強く、組織力・機動力に富む活力ある支部である。

本支部では、学校教育活動等に関する学校評価の充実や学校情報の積極的な発信に努め、学校と家庭・地域が課題を共有し、共にその解決を図るなど、「地域に開かれた信頼される学校づくり」の取組を通して、『心豊かに生きる力を育む』という本市教育基本目標の具現化に努めている。

この目標の下、月ごとに各校を会場

として開催される定例会では、会場校の校長が学校経営説明を行い、成果や課題の共有を図っている。他にも学力向上対策や心の教育等、様々な教育課題について情報交換を密に行い、自校の学校経営に生かしている。



昨年度から、岩国・和木大会の提言支部として「社会形成能力」の研究にも取り組んできた。研究課題「社会形成能力を育む教育の

推進」に迫るため、キャリア教育の視点から取り組んだ。昨年度は、各校のキャリア教育全体計画や年間計画を持ち寄り、各校の取組実践の情報交換を行い、特色ある実践や課題を洗い出した。本年度は、基礎的・汎用的能力を育成するために、校長としてどのようなマネジメントをすべきかの実践化を図り、大会当日は、アウトプット（取組内容）だけでなく、アウトカム（取組成果）も提示し、発表した。

これからも、団結力を発揮し、活気あふれる支部として共に歩んでいきたいと考えている。

（久保小学校 島田和昌）